

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第15号(2010年8月10日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児教育学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第8回総会のご報告
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第21回研修会のご報告
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第22回研修会のご案内
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部後援講演会のご案内
- 6 各地区研修会等の補助金について
- 7 編集後記



1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部
支部長・幹事 猪木 省三

暑中お見舞い申し上げます。会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

2009年5月の支部総会において支部長・幹事に選出されました、広島県の猪木省三と申します。任期は2011年度までの3年間です。

前支部長の山崎先生のを受けて、2007年度から支部長・幹事を務めております。おかげさまで支部の会員数もほぼ200名近い数となりました。現在の支部の活動は、総会の開催(年1回)、研修会の開催(年3~4回)、会報の発行、ホームページによる情報の発信、などです。これらの活動については、皆様のご支援、ご協力により、安定した軌道に乗った状態となっております。

今後は、支部がこれまでの活動を維持するとともに、さらに一層の発展ができるよう、また会員の皆様のご要望を少しでも実現できるよう、微力ながら役割を果たして参る所存です。

本年度第2回目の研修会を9月下旬に愛媛県で開催する予定です。愛媛県の会員の皆様のご尽力に感謝申し上げます。また来年になってから、本年度第3回目の中国・四国支部主催の研修会を開催する予定です。研修会への、会員の皆様の、幅広い、多くのご参加を、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、各地区で行われる研究会、事例検討会等に対して、中国・四国支部から多少の補助金を支出するようになりました。詳しくは、本号の記事をご覧ください。予算に限りがありますが、ぜひご活用いただければと存じます。

では、これからも、会員の皆様のご支援、ご協力、ご指導、ご鞭撻を、心よりお願い申し上げます。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第7回総会のご報告



2009年度中国・四国支部総会を以下の通り行いましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 2010年5月30日(日)13:00～14:00
2. 場 所 岡山県生涯学習センター
3. 議 題

(1) 2009年度活動報告

1. 支部総会の開催 2009年度活動計画及び予算、支部規程改定について審議・了承
2. 研修会の開催
 - (1) 第1回支部主催研修会2009年5月(広島オフィスセンター)
 - (2) 第2回支部主催研修会2009年9月(鳥取大学)
 - (3) 第1回支部共催研修会2009年12月(ノートルダム清心女子大
 - (4) 第3回支部主催研修会2010年3月(香川大学)
3. 会報の発行・ホームページによる情報発信 会報2回発行(5月・7月)
4. 役員会の開催 2009年5月(広島オフィスセンター)

学)

(2) 2009年度会計報告

会計監査2名の監査報告とともに、下記の通り決算報告は承認されました。

2009年度会計報告

科目	予算額	決算額
収入の部		
支部会費1	272,000	204,000
支部会費2	0	116,000
利子	1,037	571
臨床発達心理士会補助金		0
仮計	273,037	320,571
前年度繰越金	625,085	704,622
合計	898,122	1,025,193

科目	予算額	決算額
支出の部		
研修会等開催費	250,000	201,330
郵送費	20,000	65,840
事務費	50,000	1,680
事例報告会等経費	45,000	54,570
過払い支部会費返金	0	10,420
予備費	20,000	0
仮計	385,000	333,840
次期繰越金	513,122	691,353
合計	898,122	1,025,193

(3) 2009年度活動案計画

1. 総会の開催 支部会費徴収方法の変更、支部規程の改定
2. 研修会等の開催
3. 会報の発行・ホームページによる情報の発信
4. 事例報告会等の開催 各地域での開催の活性化
5. 役員会の開催
6. その他必要な活動

(4) 2010年度予算案

提出された予算案に対し、決算額を踏まえて変更する旨提案があり、一部変更の上、下記の通り承認されました。

2010年度予算案(2010年4月～2011年3月)

科目	予算額
収入の部	
1.支部会費	320,000
2.利子	571
仮計	320,571
前年度繰越金	691,353
合計	1,011,924

科目	予算額
支出の部	
1.研修会等開催費	250,000
2.郵送費	40,000
3.事務費	50,000
4.事例報告会等経費	60,000
5.予備費	20,000
仮計	420,000
次期繰越金	601,924
合計	1,011,924

(5) 支部規程の改定

2010年5月30日の中国・四国支部第8回総会において、総会の定足数についての規程改正を行い、第7条第2項を「総会は年1回開催するものとする。」に修正することが決まりました。

※規程はこちらからご覧になれます(<http://www.geocities.jp/jacdpcs/kitei.htm>)

(6) その他

- ①支部会費の徴収 今年度より再度士会本部にて徴収、文書を送付済み
- ②会員数について 2010年度会員数192名(32名増加:2名転出、3名転入、新規31名加入)

以上、総会出席者19名、委任状85名の計104名で、(支部会員総数192名)で、過半数の承認により総会は成立致しました。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第21回研修会のご報告



2010年5月30日(日)、岡山県生涯学習センターにて、中国・四国支部第21回研修会が開催されました。「認知症高齢者との対話療法の可能性」と題し、進藤貴子先生(川崎医療福祉大学医療福祉学部教授)によるご講演を賜りました。

前半は、一般的な発達臨床と対比しつつ、高齢者臨床の特徴をお示しいただきました。若い人とは異なる情動や表現形式をとり、豊富な経験や知識をもつ高齢

者への臨床について、その基本をご教示いただきました。また、エリクソンを始めとする先人が示した高齢期の心理的発達課題を様々な話題とともに分かり易くお示しいただきました。さらに、高齢期に関する新しい知見や捉え方をご紹介いただき、高齢期が人生の中で、必ずしもネガティブな時期ではないことを知ることができました。

休憩を挟んで後半では、認知症の高齢者臨床を中心に、進藤先生の豊かなご経験の一端を温かみの溢れるお話とともに伺うことができました。まず、認知症高齢者の映像をお示しいただき、いろいろな状態像について具体的に学ぶことができました。また、クリスティーン・ボーデン氏の著書などをご紹介いただきながら、認知症になってからの発達上の可能性について知ることができました。高齢者臨床の専門家が圧倒的に不足している中で、「誰かに話したい、語りたい」という認知症高齢者の思いに沿いつつ、「存在不安の解消」と「孤独の解消」という、支援の柱を丁寧に示していただきました。

ご講演後、参加者から質問が出され、さらに学びを深めることができました。認知症高齢者の現実を知ると同時に、老いるとはどういうことか考える貴重なひとときとなりました。参加者数は29名。他支部からのご参加もあり、教室はいっぱいになりました。臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

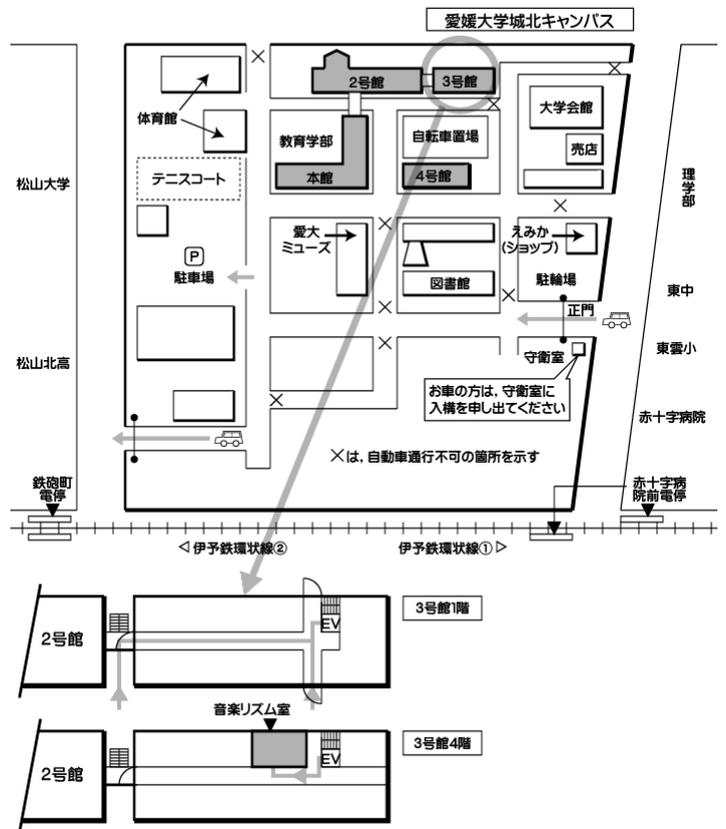
4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第 22 回研修会のご案内

中国・四国支部の活動として次のような研修会が開催されます。何かとお忙しい時期ですが、たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。研修会の参加者ポイントは(1)区分 1ポイント(3時間)です。

1. 日時 2010年9月26日(日)
14:00~17:00
2. 場所 愛媛大学教育学部3号館6階
音楽リズム室
(〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番)
3. 講師
長尾秀夫先生(愛媛大学教育学部教授)
4. 題目
「事例から学ぶ 発達支援の在り方」
5. 概要

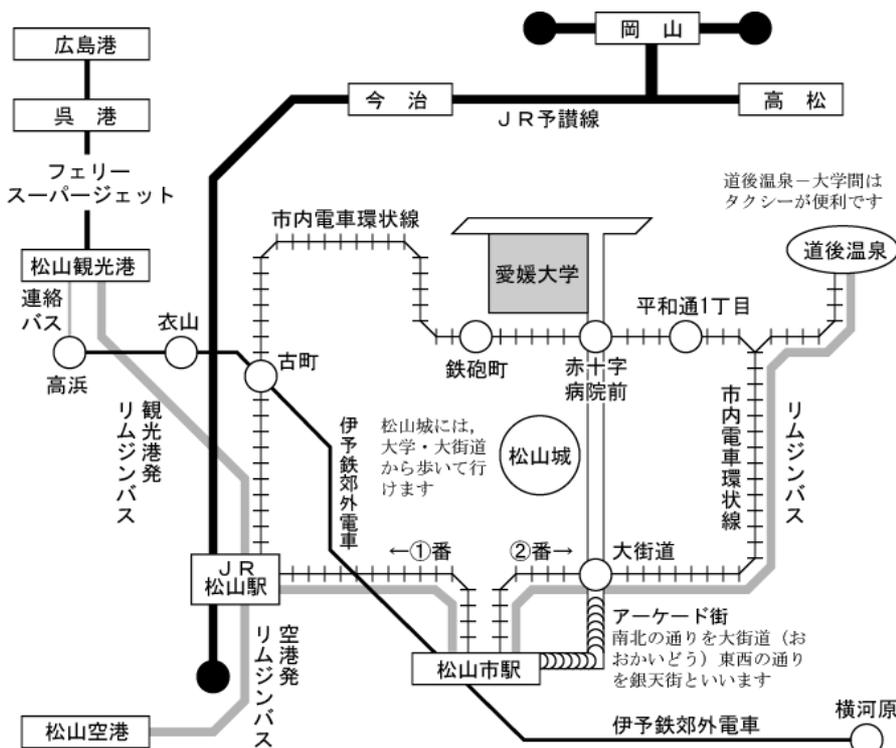
講師の長尾先生は、愛媛大学教育学部で特別教育医学をご専門として教鞭をとっておられます。当日は、実態把握として国際生活機能分類をもちいること、支援の在り方は「P D C A サイクルの成功例を発展させる」方法で立案すること等を紹介していただき、研修会参加者から提出された事例レポートを基に、対象児、そのかわり手、その他の環境について分析したり、支援の実際についても検討したりしていただけるそうです。参加者全員での意見交換を行いますので、ふるってご参加ください。

愛媛大学教育学部 音楽リズム室のご案内



愛媛大学へのアクセス

- 飛行機や船で松山へ
松山空港と松山観光港から市内まではリムジンバスが出ていますので、これをご利用になると便利です。JR松山駅から下の要領で市内電車に乗り換えてください。
- JR松山駅から大学へ
駅前の市内電車乗り場(古町・鉄砲町方面)で1番の電車に乗り「赤十字病院前」で下車してください。



6. 参加される方へのお願い

参加される方は、できるだけご自分の事例を A4 判 1 枚にまとめ、9 月 21 日までに下記へ郵送にてお送りください。いただいた事例は、研修の中で取り上げさせていただきます。

〒790-8577 愛媛県松山市文京町 3 番 愛媛大学教育学部 深田昭三 宛

E-mail : fukada●ed.ehime-u.ac.jp

(メール送信の際は、左記アドレスの●を@に変えて送信してください)

5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部後援講演会のご案内



講演会：「自閉症を正しく理解すること」～自閉症の支援で最も大切なこと～

主 催：TEACCH プログラム研究会香川県支部 朝日新聞厚生文化事業団

後 援：厚生労働省 文部科学省 香川県 高松市 香川大学 日本自閉症協会香川県支部

香川県教育委員会 高松市教育委員会 日本臨床発達心理士会中国・四国支部

概 要：自閉症の人たちに、適切な支援をするために必要なこと。

それは、言うまでもなく「自閉症の人たちの障害（特性）を正しく理解すること」です。

いま世界で最も認められている自閉症の人たちへの支援モデルである米国ノースカロライナ州の TEACCH プログラムについて、同大学のゲーリー・メジボフ教授に解説していただきます。自閉症を正しく理解し、適切な支援をするための、世界でいま最も新しく理解しやすい講演会です。

日 時：2010 年 8 月 31 日（火） 10:00～16:00

場 所：アルファあなぶきホール（香川県民ホール）玉藻

香川県高松市玉藻町 9-10（JR 高松駅から徒歩 8 分）



会場へのご案内

高松市玉藻町 9-10

【交通案内】

高松中央インターから車で 15 分

高松西インターから車で 20 分

JR 高松駅より徒歩 8 分

琴電高松築港駅より徒歩 8 分

講 師：ゲーリー・メジボフ（ノースカロライナ大学教授）

参加費：3,000 円 定 員：450 人（定員になり次第締め切り）

お弁当：1,000 円（希望者のみ）

ご希望の方にはお弁当を用意します。お申し込み時にその旨をお知らせください。

●お申し込み方法

(1)お名前(ふりがな) (2)〒・ご住所 (3)TEL・FAX (4)ご職業 (5)会場名(高松会場)をご明記の上、下記まで FAX・Eメール・はがきのいずれかでお申し込みください。

また、お弁当をご希望の方は (6)弁当希望とお書き添えください。

【お申し込み先】朝日旅行「高松講演会」係

〒105-8549 東京都港区芝大門 1-4-8 fax. 03-5777-3395 tel. 03-5777-6721

E-mail ecc@asahiryoko.co.jp

※詳細はこちらからご覧になれます(<http://www.geocities.jp/jacdpcs/osirase.htm>)

6 各地区研修会等への補助金について

今年度総会においても検討されました、中国・四国支部会員による各地区での事例報告会や、臨床発達心理にかかわる研修会の実施を活性化することをねらいに、支部より補助金の支出を行っております。今年度は、先にご案内した香川地区での後援会への補助金の支出が決まっております。中国・四国支部会員のみなさまには、是非この制度を積極的にご利用いただければと存じます。本年度の予算では6万円を計上し、1件あたり12,000円を補助金として支出することとしております。現段階では、同一申請者の限度額については申請状況を見て検討することになっております。申請にかかわる手続きは以下の通りです。みなさまふるってご活用ください。

- (1) 申請者は、中国・四国支部から補助を受ける必要性について、申請書を支部事務局へ提出する。
- (2) 申請書をもとに、支部長・研修担当役員が支出の適否を判断する。
- (3) 補助金の支出が決まった後、申請者は、開催内容の詳細を研修担当役員に連絡する。
- (4) 研修担当役員は、支部会員に開催内容をメールで送信する。ホームページ担当役員は、支部ホームページに開催内容を掲載する。
- (4) 申請者は、開催案内・通知・チラシに、「日本臨床発達心理士会中国・四国支部後援」と記載する。
- (5) 申請者は、開催当日の会場に臨床発達心理士のパンフ・資料を置いて、臨床発達心理士について広報する。
- (6) 申請者は、収支決算報告を支部事務局に提出する。



7 編集後記 ～HPをご覧ください～

中国・四国支部会報第15号いかがでしたか。支部の活動をますます活性化させるために、会員のみなさまからの情報もどしどしお寄せください。支部からの補助金の活用も含め、各地区での活動や講演会などのお知らせも事務局や下記の会報担当までお寄せいただければ、メール配信やHP掲載などで情報提供をして参ります（支部ホームページ <http://www.geocities.jp/jacdpcs/>）。

会報につきましても会員相互の情報交換等に役立つよう、引き続き、会員の皆様から「会員紹介」「耳より情報」など、自薦他薦を問わずご投稿を広く募っております。気軽に奮ってお寄せ下さい。

(宛先：yashima●hbg.ac.jp：ご利用の際は、●を@にかえてご入力ください)

(編集委員会)